

小学校における地域の歴史・文化資源を教材としたまちづくり学習の有効性と課題

The Effectiveness of Educational Programs of Community Development for Primary School Children by Using Educational Materials of Historic Resources

小林 彩香*・室田 昌子**
Ayaka Kobayashi*・Masako Murota**

This study focuses on the effectiveness of Educational Programs for Community Development. I conducted Educational Programs for Community Development of Primary Schools while seeking cooperation with community residents and universities. We analyzed relationship between method of Educational Programs and conatus of inhabitation and regional activities by questionnaire for children. We summarized the effects of children's attitudes of methods of Educational Programs. In conclusion, it is necessary to introduce the various methods for step up various children. Best of all, the program while seeking cooperation with community residents have a profound effect conatus of inhabitation and regional activities

Keywords: Educational Programs for Community Development, Change in Consciousness, Primary Schools, Region Cooperation, Historic Resources
まちづくり学習、意識変化、小学校、地域連携、歴史資源

1. はじめに

1-1. 研究の背景

近年の都市化や少子化などの影響で児童を取り巻く環境が大きく変化する中、児童自らを取り巻く地域社会との関わりや多世代交流の機会が乏しくなっており、そのことが、他者や地域に対する関心の低下の原因となっていることが指摘されている。従来は、多様な多世代交流が自然に行われ、周囲と協調することや自ら関わることの重要性を学び、多世代交流を通じ、地域の歴史を継承するなどの直接的な体験が行われていたが、現在は、町内会の子供会や小学校の地域学習、公園など児童の触れ合う機会が限られている。このような状況に対し、小学校や中学校などでは、総合的な学習の時間を使ったまちづくり学習が活発に行われている。次世代を担う児童に対し、地域学習やまちづくり学習を通じ、地域への関心を高めることや、主体的な関与意識を高めるきっかけを促すことが重要である。

1-2. 研究の目的

本研究では、小学校 5 年生の総合的な学習の時間を対象に、地域の「歴史・伝統」をテーマとしたまちづくり学習プログラムを立案・実施する。歴史に着目したまちづくり学習の実践と評価より、児童の地域への関心がどう変化するか、児童の主体的関与の意識がどれだけ高まるかを検証し、今後のまちづくり学習のあり方を提言する。

1-3. 研究の位置づけ

行政や大学連携を伴うまちづくり学習は様々な自治体や学校で多く実践され、学習が全て終わった段階の受講者の意識変化の結果や授業評価からまちづくり学習を評価、課題について分析した論文が一般的に行われている。総合的な学習の時間に実施された歴史・伝統をテーマとしたまちづくり学習に関する過去の論文では、受講者の地域への関心の変化と授業評価、外部連携意識の調

査はされているが、本研究では、地域の歴史を学習することでの受講者の主体的関与意識への影響についても調査を実施することでまちづくり学習の効果を把握する。

1-4. 研究の方法

小学校と授業内容に関する打ち合わせを適宜行い、内容を検討し、まちづくり学習プログラムを立案・実施する。どのような学習手法が児童の地域に対する意識・関心の喚起に有効に働くのか調査するため受講した児童に対し、「地域への関心」と「授業評価」、主体的関与意識への影響をみるため「イベント参加意欲」「ボランティア参加意欲」「居住意識」についてどう変化したのか同じ設問を含んだアンケートを実施する。アンケートは、授業前に 1 回と各授業後に実施し、児童には毎回同じ番号をつけたアンケート用紙に回答してもらう。児童別・学習手法別にデータを収集・分析することで意識変化を決定づける要因を明らかにする。

2. まちづくり学習プログラムと対象小学校の選定

2-1. まちづくり学習プログラムの基本方針

プログラムを立案する際に基本方針として次の 4 つの項目を取り入れることとした。

- (1)地域の歴史資源に着目する。
- (2)現存する歴史資源と消滅した歴史資源の検証を行う。
- (3)学習手法に地元関係者による講義とまち歩きを組み込む。
- (4)歴史資源を踏まえた地域への今後の提案を行う。

以上を踏まえ、まちづくり学習を企画、対象小学校に提案した。

2-2. 対象小学校の選定

東京都中央区立常盤小学校 5 年生を対象とした。選定した理由として、この学校は 1873 年に設立し、現在までに 140 年の歴史があることと、商店街など地域の人々の寄付金により設立された背景があり、小学校と地域の人々と深い繋がりがあることから、

* 学生会員 東京都市大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻(Tokyo City University)

**正会員 東京都市大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻(Tokyo City University)

今回、本研究のまちづくり学習の基本方針に合致すると考えた。

2-3. 対象小学校の特徴

東京都中央区日本橋本石町の商業・業務地に立地し、地域と連携した学習活動に積極的である。本研究で対象とした5年1組の児童の28人中5人が学区内、23人が学区外から通学している。

3. まちづくり学習プログラム

今回、日本橋をフィールドに地域の歴史資源から地域の魅力を再確認し、その現状を把握し、そこからより良い地域にするための提案を考えることで、地域に関わろうとする主体的関与意識の醸成と地域への関心を育むことを目的としている。(表-1)

【表-1】まちづくり学習プログラムの実施概要

対象小学校	東京都中央区立常盤小学校
学習対象者	5年1組28名
授業の種類	総合的な学習の時間
単元名	日本橋の歴史資源を未来に繋げよう
学習のテーマ	歴史資源の発掘と活用
実施時期	2012年9月12日～10月27日
学習時間	計15コマ(1～2コマ/回×8回)+発表会、1コマ45分、発表30分
支援者	大学生6名、地域の老舗店主3名
関連イベント	小学校開校140周年記念

4. 支援体制

筆者を中心として学生6名が授業の進行と児童のサポートを行った。また、日本橋で老舗を営んでいる3店舗の老舗店主の協力老舗店主の協力を得た。これは、地元に関与した経験を踏まえた声を聴くことで、児童の思考を刺激することを目的とした。

【表-2】老舗の概要

業種	歴史
日本料理店	創業150年
蕎麦・日本料理店	創業60年
大規模小売店	創業330年

5. まちづくり学習プログラムの内容

内容は4つのステップで構成した。ステップAでは、地域の歴史資源の発掘と問題認識を行い、ステップBでは、歴史資源の今後のあり方について話し合い、まちづくり手法の開発を実践し、ステップCでは、歴史資源を踏まえて観光化を目的としたまちづくりの提案を行い、ステップDで発表し、意見を児童で共有するという流れとなっている。(表-3)

【表-3】まちづくり学習プログラムの内容

ステップ	No.	回	コマ	授業名	手法	内容	使用した物				
A	A-1	1	2	日本橋の歴史を学ぼう	講師による直接的な講義	日本橋地域の発展の歴史紹介	・古地図「江戸時代(1851)」J1:5000 ・古地図「昭和初期(1937)」J1:5000 ・古い写真、絵図と現在の写真 補注(1)				
					グループワーク	古地図から日本橋地域の昔と今を比較					
	A-2	2	1	地域の担い手の話を聞こう	映像による間接的な講義	老舗店主による老舗の歴史紹介と日本橋地域の将来像について	・ビデオ映像				
A-3	3	2	歴史資源を探索しよう	まち歩き	歴史資源の発掘と検証	・古地図「明治時代(1911)」J1:3580					
B	B-1-1	4	1	歴史資源の活用方法を考えよう	問題解決型ディスカッション	まち歩きの成果についての話し合い ①歴史資源の現状の問題点②歴史資源の今後の活用 ③情報発信のツールの決定	なし				
					B-1-2	4	1	歴史資源の情報を調べよう	インターネット調査	児童の関心別の歴史資源の調査	・パソコン
					B-2	5	2	歴史資源の情報を調べよう	資料調査	児童の調査内容の共有	・古い写真、絵図 補注(1) ・調査用資料
					B-3	6	2	歴史資源の情報を発信しよう	資料制作	<歴史地図による情報発信> 白地図に歴史資源情報のプロットした歴史地図の制作 <歴史かるたによる情報発信> 遊びながら日本橋地域の歴史が分かるかるたの制作	・白地図「平成(2012)」J1:5000 ・古地図「江戸時代(1851)」J1:5000 ・古地図「明治時代(1911)」J1:3580 ・A4サイズのカラー用紙 ・縦9cm、横6.5cmのカルタキット ・A0の模造紙・マジックペン
C	C	7	2	地域を良くする方法を考えよう	提案型ディスカッション	地域観光を促進するまちづくり提案についての話し合い	・A0の模造紙 ・ポストイット				
D	D-1	8	1	発表リハーサル	なし	リハーサル	・児童による自主制作の歴史地図と ・歴史かるた				
	D-2	9	30分	発表会	なし	発表会本番					

5-1. 地域の歴史資源の発掘と問題認識

A-1では、現存する歴史資源と消滅した歴史資源、各変遷に着目し、日本橋地域の発展の歴史を紹介し、地域に残る魅力を再確認した。A-2では、3店舗の老舗店主の協力により、ビデオ映像に出演してもらい、老舗の歴史を紹介した。映像は、事前に学生がインタビュー・撮影したもので、インタビューの最後に、将来日本橋地域がどうなってほしいかという学生の質問について3店舗が共通して「日本橋の観光を発展させていきたい」という意見が出たので、これらの映像を授業で流した。A-3では、班に分かれ、班を担当する学生の進行により、現存する歴史資源と消滅した歴史資源の検証しながら、歴史資源の実態を把握した。

5-2. 歴史資源の今後のあり方とまちづくり手法の開発

B-1-1では、まち歩きの成果より、歴史資源の現状の問題点と今後の活用についてどうすべきかを児童でディスカッションを行った。その結果、日本橋地域の観光化を目的に、歴史資源の情報発信をしていこうという意見にまとまったため、発信のツールについて、学生が「地図」と「かるた」を提示し、班ごとに歴史地図班2班と歴史かるた班2班に分けた。B-1-2では、班の担当を分けた後、誰が地域の魅力の何について伝えるかを児童の歴史資源への関心別に役割を分担し、一人ひとりが個別に知識を深めるため、インターネット調査を行った。授業後に児童がまとめたメモ用紙を回収した。支援学生はそれのチェックを行い、児童の調べたテーマ別の詳しい情報を載せた資料を準備し、調べた内容から必要な情報のみを簡潔にまとめられるようクイズを考え、赤ペンで用紙に書き込んだ。B-2では、準備した資料とアドバイスを追加したメモ用紙を配布し、児童はこれらを参考に調べ学習のまとめを再度行い、調べた情報を班で共有した。B-3では、班ごとに調べた内容について、歴史地図班は白地図に可視化を行い、歴史かるた班はクイズ要素と写真を加えてかるたを作成した。

5-3. 歴史資源を踏まえたまちづくりの提案

Cでは、「観光を促進するためにはどうしたら良いか」について児童がまちづくり活動の提案を考えた。班ごとに児童らは意見を出し合いKJ法を用いて、提案意見を発表・ポストイットに書き出し、意見を分類し整理した。

6. アンケート調査の結果

6-1. 各授業の授業評価

授業評価について、各授業後に「面白かった」「どちらかといえば面白かった」「あまり面白くなかった」「つまらなかった」の 4 項目から一つを選択し、理由を記述する方法で調査した。A-3 から B-2 にかけて、「面白かった」を選択した児童が多く、「まち歩きでの疑問が調査でわかったから」、B-3 では「自分の調べたものを形にできて楽しい」という理由が挙げられた。

6-2. 各授業後の日本橋地域に対する関心度

日本橋地域に対する関心度が前回と比べてどう変化したかについて「とても上がった」「上がった」「不変」「下がった」の 4 項目から一つを選択し、記述で何に関心を持ったかを書いてもらう方法で調査した。全体的に関心度は向上しており、関心の対象としては、A-1 では、現存する歴史資源と消滅した歴史資源の変遷に関心が集まり、B-1 以降は現存する歴史資源の変遷に関心が集まっていることがわかった。

6-3. 各授業後のイベント参加意欲

日本橋地域の伝統あるイベントへの参加意欲が前回と比べてどう変化したかについて、各授業後に「上がった」「不変」「下がった」の 3 項目から一つを選択し、理由を記述する方法で調査した。B-1 から B-3 にかけて、「上がった」を選択した児童が多く、「歴史あるまちを賑やかにしたい」という理由が挙げられた。

【表-9】 変化の理由

No.	上がった理由		下がった理由		人数	構成比
	人数	構成比	人数	構成比		
イベント参加意欲	A-1	・伝統を受け継ぎたい ・伝統にもっと触れたい	4	該当なし	4	0%
	A-2	・イベントを盛り上げたい ・楽しいから ・日本橋地域の仲間になりたい	2	該当なし	2	0%
	A-3	・歴史のあるまちでイベントがあることを知り ・興味が出た	5	該当なし	5	0%
ボランティア参加意欲	B-1-1,2	・まちを賑やかにしたい ・伝統を受け継ぎたい ・興味が出た	5	該当なし	5	0%
	B-2	・歴史のあるまちを賑やかにしたい	4	該当なし	4	0%
	B-3	・歴史のあるまちを賑やかにしたい	4	該当なし	4	0%
居住意識	A-1	・歴史ある日本橋のまちを綺麗にしたい ・大学生のようにボランティアをやってみたい	12	該当なし	12	0%
	A-2	・まちを綺麗にしたい ・みんなのためにになりたい	4	該当なし	4	0%
	A-3	・まちが汚れていたのに綺麗にしたいと思った ・歴史ある老舗のためにまちを綺麗にしたい	4	該当なし	4	0%
居住意識	B-1-1,2	・まちの活性化を手伝いたい ・住みやすいまちにしたい ・ボランティア活動に興味が出た ・道を綺麗に保つ大切さがわかった	2	無回答	2	1%
	B-2	・まちをより良くしたい	1	該当なし	1	0%
	B-3	・まちをより良くしたい	1	無回答	1	0%
居住意識	A-1	・日本橋地域の歴史に興味を持った ・日本橋地域の伝統を受け継ぎたい	6	住み慣れたまちが落ち着く ・田舎に住みたい	2	2%
	A-2	・老舗のあるまちに住みたい ・老舗料理が食べたい ・老舗にもっと触れたい	7	該当なし	1	1%
	A-3	・老舗料理が食べたい ・いろいろな伝統があるから	5	住む場所が少ない	1	1%
居住意識	B-1-1,2	・老舗が多く賑わっているから ・日本橋地域の歴史に興味を持った	4	住む場所が少ない	1	1%
	B-2	・いろいろな歴史があるから ・日本橋地域の歴史に興味を持った ・イベントやボランティアでまちを綺麗にしている	4	該当なし	2	0%
	B-3	・いろいろな歴史がある	5	無回答	1	1%

【表-4】 各授業の授業評価

No.	児童の番号																												面白かった		どちらかといえば面白かった		あまり面白くなかった		つまらなかった		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	
A-1	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	c	-	a	a	a	a	b	b	b	a	a	a	23	85%	3	11%	1	4%	0	0%
A-2	b	a	a	a	a	a	a	a	a	b	a	a	a	a	b	b	a	c	a	b	b	a	a	b	b	b	a	a	a	18	64%	9	32%	1	4%	0	0%
A-3	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	b	-	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	26	96%	1	4%	0	0%	0	0%	
B-1-1,2	b	a	a	a	a	a	a	b	a	a	a	a	a	a	a	b	-	c	a	a	b	a	a	a	a	a	a	a	22	82%	4	15%	1	4%	0	0%	
B-2	a	a	a	a	b	a	a	a	a	a	a	-	b	a	a	a	b	a	b	a	b	a	a	a	a	a	a	a	22	82%	5	19%	0	0%	0	0%	
B-3	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	-	b	a	a	a	b	a	b	a	b	a	a	a	a	a	a	a	22	85%	4	15%	0	0%	0	0%	

「a」:面白かった、「b」:どちらかといえば面白かった、「c」:あまり面白くなかった、「d」:つまらなかった、「-」:欠席

【表-5】 各授業後の日本橋地域に対する関心度の変化

No.	児童の番号																												とても上がった		上がった		不変		下がった		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	
A-1	b	a	a	b	b	b	b	a	b	b	b	b	b	a	a	b	b	-	b	b	a	b	a	b	a	c	a	b	b	9	33%	17	63%	1	4%	0	0%
A-2	b	a	a	b	b	b	b	a	b	b	b	b	b	b	a	b	b	b	b	a	b	b	b	a	b	b	a	b	b	7	25%	21	75%	0	0%	0	0%
A-3	b	a	a	a	a	b	b	b	b	b	b	b	b	a	a	b	-	a	b	a	a	a	b	b	a	b	a	b	a	13	48%	14	52%	0	0%	0	0%
B-1-1,2	a	a	a	a	b	b	b	a	b	b	a	b	b	b	a	b	-	b	a	a	a	b	b	a	b	b	a	b	b	13	48%	14	52%	0	0%	0	0%
B-2	a	a	a	a	b	b	b	a	b	a	-	a	b	b	a	c	b	b	a	a	b	a	b	b	b	b	a	a	14	52%	12	44%	1	4%	0	0%	
B-3	b	a	a	a	b	b	c	a	b	b	-	a	b	-	a	a	b	b	b	c	a	a	b	a	c	b	b	a	11	42%	11	42%	3	12%	0	0%	
C	b	a	a	a	c	b	b	a	b	a	a	b	c	b	a	b	a	-	-	a	b	a	c	b	b	b	b	b	11	44%	11	44%	3	12%	0	0%	

「a」:とても上がった、「b」:上がった、「c」:不変、「d」:下がった、「-」:欠席

【表-6】 各授業後のイベント参加意欲の変化

No.	児童の番号																												上がった		不変		下がった	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
A-1	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	-	B	B	A	B	B	B	B	A	B	A	7	26%	20	74%	0	0%
A-2	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	A	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	6	21%	22	79%	0	0%
A-3	B	A	A	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	-	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	5	18%	22	79%	0	0%	
B-1-1,2	B	A	B	A	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	-	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	7	25%	20	71%	0	0%
B-2	B	A	B	B	B	B	B	B	A	-	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	4	14%	23	82%	0	0%
B-3	B	A	B	B	B	B	B	B	B	-	A	B	-	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	4	15%	22	85%	0	0%

「A」:上がった、「B」:不変、「C」:下がった、「-」:欠席

【表-7】 各授業後のボランティア参加意欲の変化

No.	児童の番号																												上がった		不変		下がった	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
A-1	B	A	A	A	B	A	B	A	A	A	B	B	B	B	B	B	-	B	A	A	A	A	A	B	A	B	A	A	15	56%	12	44%	0	0%
A-2	A	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	7	25%	21	75%	0	0%
A-3	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	-	B	A	B	B	B	B	B	B	B	A	5	18%	22	79%	0	0%
B-1-1,2	A	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	-	B	C	B	B	B	A	B	B	B	6	21%	20	71%	1	4%	
B-2	B	B	B	B	B	B	B	B	A	-	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	2	7%	25	89%	0	0%
B-3	B	B	B	B	A	B	B	B	B	-	B	B	-	B	B	B	B	B	B	C	C	B	B	B	B	B	B	B	1	4%	23	88%	2	8%

「A」:上がった、「B」:不変、「C」:下がった、「-」:欠席

【表-8】 各授業後の居住意識の変化

No.	児童の番号																												上がった		不変		下がった	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
A-1	A	B	B	B	A	A	C	B	B	A	B	B	B	B	A	B	A	B	-	C	B	A	B	C	B	B	B	B	7	30%	12	52%	3	13%
A-2	B	A	A	B	B	B	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	B	A	A	B	A	14	50%	14	50%	0	0%
A-3	A	A	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	-	B	C	A	B	B	A	B	A	B	A	A	9	32%	17	61%	1	4%
B-1-1,2	B	A	A	A	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	-	C	B	A	B	B	A	B	B	B	A	7	25%	19	68%	1	4%
B-2	B	A	A	A	B	B	B	A	B	A	-	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	7	25%	20	71%	0	0%
B-3	B	A	B	A	B	B	C	B	B	A	-	B	B	-	B	B	B	B	B	A	B	B	A	B	B	B	A	7	27%	18	69%	1	4%	

「A」:上がった、「B」:不変、「C」:下がった、「-」:欠席

6.4. 各授業後のボランティア参加意欲

日本橋地域のボランティアへの参加意欲が前回と比べてどう変化したかについて、各授業後に「上がった」「不変」「下がった」の 3 項目から一つを選択し、理由を記述する方法で調査した。B-1 から B-2 にかけて「上がった」を選択した児童は「地域活性化を手伝いたい」という理由を挙げていた。

6.5. 各授業後の居留意識

日本橋地域の居留意識が前回と比べてどう変化したかについて、各授業後に「上がった」「不変」「下がった」の 3 項目から一つを選択し、理由を記述する方法で調査した。A-2 で上がった児童が多く「老舗にもっと触れたい」という理由を挙げていた。

6.6. 授業前後の主體的関与の意識と居留意識

授業前とすべての授業が終了した段階で行ったアンケートで、最終的にイベント参加意欲とボランティア参加意欲がどう変化したかについて「将来企画したい」「新しく参加したい」「続けていきたい」「参加したくない」の 4 つの項目から複数選択できる方法で調査した。結果、全体的に主體的関与の意識が上がった傾向となった。また、同アンケートで、将来日本橋地域に住みたいと思うかについて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の 4 項目から一つを選択する方法で調査した。結果、特徴的な変化は見られなかった。

7. 分析

7-1. 主體的関与の意識変化別の児童の分類

イベント参加意欲とボランティア参加意欲の変化について、3 回以上意欲が上がった児童を「タイプⅠ」、1、2 回上がった児童を「タイプⅡ」、変化が見られなかった児童を「タイプⅢ」、意欲が下がった児童を「タイプⅣ」に分類した。

7-2. 主體的関与と歴史資源の関連性

学習した歴史資源との関連性をみると、タイプⅠは、現存する歴史資源と変遷に関心を持った児童で、タイプⅡ・Ⅳは、関心が分散した児童で、タイプⅢは、現存する歴史資源のみに関心を持った児童であった。

7-3. 主體的関与と学習手法の関連性

学習手法との関連性をみると、タイプⅠは、一連の学習手法についての評価が高く、他のタイプは一部の学習手法の評価が高い児童であった。

7-4. 主體的関与と居留意識の関連性

すべての授業が終了した段階のアンケートより、居留意識との関連性をみると、最終的に居留意識が上がった児童と下がった児童では、共に、イベント参加意欲またはボランティア参加意欲が上昇した児童が多かった。

8. まとめと考察

今回実施したまちづくり学習は、対象とした地域が歴史豊かであったことと、児童らは元からの歴史への関心が高かったという条件が整っていたことを前提に歴史資源を教材としたまちづくり学習を実施した。これにより、現存する歴史資源から変遷を結び付けて地域を捉えることができた児童は、主體的関与の意識が向上したことと 2 居住者と非居住者に関係なく、日本橋地域への主體的関与の意識が上昇したことから「第二の故郷意識」が児童の中で芽生えたのではないかと考える。歴史ある地域の資源の変遷を学ぶことで、非居住者の地域への関心の喚起に有効であった。地域の歴史資源を活用したまちづくり学習プログラムとして、歴史資源から地域の歴史を遡り、その変遷を結び付けていけるようステップを踏めることが重要である。また、まち歩きや地域の人の声を聞くこと、古地図を使用するなど様々な学習手法とツールを組み合わせ、地域への関心を喚起し、課題発見し、知識を深め、解決のための提案を行うといった一連の流れを伴う必要がある。

今後、自宅と就学先の地域が異なる人に対し、就学先地域の故郷振興に着目していくこともまちづくり学習のあり方の一つではないだろうか。様々な形でまちづくりに積極的に取り込んでいくことが重要といえる。

<補注>

(1) 出典：中央区(2011)「石橋開橋 100 周年記念、日本橋-人をつなぐ・時代をつなぐ-

<参考文献>

- 1) 新田瑠衣, 篠部裕(2007)「総合的な学習の時間におけるまちづくり学習の実践に関する基礎的研究」日本建築学会中国支部研究報告集(30)
- 2) 中川義英, 赤松宏和, 片石圭介(1999)「中学校におけるまちづくり学習の実践と教員の協働」土木計画学研究論文集(16)

【表-10】授業前後のイベント参加意欲の変化

	児童の番号																												将来企画したい		新しく参加したい		続けていきたい		参加したくない	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
授業前	c	c	c	c	c	c	c	b	c	c	d	c	c	c	c	c	-	d	d	c	c	c	c	c	c	c	c	0	0%	1	4%	23	85%	3	11%	
授業後	a	ab	a	a	c	c	a	a	c	ab	ab	b	c	a	a	a	b	ab	-	-	-	b	ab	a	c	a	a	a	17	68%	7	28%	5	20%	0	0%

「a」: 将来企画したい、「b」: 新しく参加したい、「c」: 続けていきたい、「d」: 参加したくない、「-」: 欠席

【表-11】授業前後のボランティア参加意欲の変化

	児童の番号																												将来企画したい		新しく参加したい		続けていきたい		参加したくない	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
授業前	d	c	b	c	d	b	d	b	b	d	d	d	d	d	c	d	-	d	b	c	b	c	c	c	c	c	b	0	0%	9	33%	9	33%	9	33%	
授業後	a	a	a	a	b	a	d	ab	b	b	ab	c	c	d	a	a	d	a	-	-	-	ab	a	ab	c	c	c	ab	14	56%	8	32%	5	20%	3	12%

「a」: 将来企画したい、「b」: 新しく参加したい、「c」: 続けていきたい、「d」: 参加したくない、「-」: 欠席

【表-12】授業前後の居留意識の変化

	児童の番号																												そう思う		どちらかといえばそう思う		あまりそう思わない		そう思わない	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
授業前	C	A	A	A	C	C	C	A	B	C	C	B	B	B	C	C	C	-	A	A	B	A	C	C	C	A	C	B	8	30%	6	22%	13	48%	0	0%
授業後	B	A	B	A	B	C	D	A	C	B	D	A	B	C	C	C	B	-	-	-	A	D	A	D	A	C	B	7	28%	7	28%	7	28%	4	16%	

「A」: そう思う、「B」: どちらかといえばそう思う、「C」: あまりそう思わない、「D」: そう思わない、「-」: 欠席